

令和5年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：令和5年6月27日（火）

14時00分～

場所：東温市役所4階 大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

- (1) 令和4年度事業報告及び計画の評価等について
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果及び事後報告について
- (3) 地域内フィーダー系統確保維持に係る公共交通計画について
- (4) 山間路線クロスセクター効果の算定結果について
- (5) その他報告事項

4. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】令和4年度事業報告

【資料2】地域公共交通計画の評価等結果の様式

【資料3】地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果及び事後報告について

【資料4】地域内フィーダー系統確保維持に係る地域公共交通計画

【資料5】山間部路線のクロスセクター効果の試算

東温市地域公共交通活性化協議会(東温市地域公共交通会議)委員名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大石 秀輝	
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	竹中 由紀夫	代理:清水 達郎
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	松本 真一	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	谷口 政賀津	欠席
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	森倉 遼太	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	河本 卓朗	
8	東温市産業建設部	部長	上岡 浩二	
9	東温市区長会	会長	三棟 義博	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	東 正史	
11	東温市婦人会	会長	萩原 貴美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	
13	東温市社会福祉協議会	会長	菅野 邦彦	
14	市民の代表(公募)		森 善政	
15	市民の代表(公募)		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	脇田 敏和	
17	伊予鉄労働組合	書記次長	藤本 孝	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	菊池 勝二	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	一色 利彦	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	洲之内 豊明	代理:花岡 副武

	【アドバイザー】香川高等専門学校	教授	宮崎 耕輔	
--	------------------	----	-------	--

令和5年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和5年6月27日 14:00～15:55

会 場： 東温市役所 4階 大会議室

1. 開会

進 行： これより令和5年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 令和4年度事業報告及び計画の評価等について

事 務 局： <説明【資料1】>

<説明【資料2】>

会 長： ただいまの説明について、何か質問はないか。

横 手： 2ページの東温市が負担している公共交通サービスの収支差について。達成状況・分析の欄における“乗合タクシー”は、上林で運行されている乗合タクシーと思われるが、運行実績について確認したい。

事 務 局： 令和4年度実績については、利用回数が255回、利用者がのべ378名。令和3年度実績については、利用回数が183回、利用者がのべ256名。120名程利用が増加し、コロナ禍前の水準に回復した。補助額は、令和3年度20万4,940円に対して、令和4年度については、31万8,980円となっている。

横 手： 運行業者の感覚としてはいかがか。

和 田： 令和2、3年度については、例年の3分の2弱まで落ち込んでいた。しかし、令和4年度については、想像以上の回復が見られた。この調子でご利用が続けば良いと思う。

横 手： 登録利用者数については増加しているか。

事務局： 登録利用者は増加していない。

横手： 従来からの利用者の利用が増加した具合か。

事務局： そのような状況。

和田： コロナ禍が収束しつつあり、それに伴って利用者数は順調に回復している。直近 5 月の利用についても、コロナ禍以前と変わらない利用があり、以降も順調に伸びていくものと期待している。

清水： 1 ページの一番上。評価・次年度に向けた課題や取組の表記について、“自動車を運転される方が公共交通を必要と感じてない”とあるが、公共交通に係る報告書としては相応しくない表現ではないか。

事務局： あくまで自治会との協議の中で出た一つの意見に過ぎず、住民全体の総意ではない。事実、包括支援センターさんからは、公共交通のご要望もいただいている、市としてもそのようなニーズをより多くの方と共有し、ご理解いただきたいという趣旨であった。

会長： 今ご指摘をいただいた個所について、表現を変えて報告をすることが望ましいと思う。

事務局： 了承した。変更後の表記については、後日皆様の方に周知する。

森倉： 基礎的なところで恐縮ではあるが、延べ人数となっている 2 番目と 4 番目の目標については、何年間の目標としているか。

ガイドについては、全世帯への配布を目標にしているのであれば、達成の評価としては全転入世帯との割合を示すと良いのではないか。

最後に、2 ページ目の公的負担額について、便数の削減により経費が削減されたとの表記がある一方、後述では利用者の増加により経費が増えるとの表記されている。路線バスと乗合タクシーについては、明確に分けて分析・評価されてはいかがか。

事務局： 目標の期間については、計画を策定した令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間の目標となっている。

モビリティマネジメントについては、そもそも一番繁忙期である 3 月、4

月に実施できていない状況にある。刷新後、配付体制が整い次第、全体像を把握できる数字と合わせて報告できるようになればと考えている。

ご指摘のとおり乗合タクシーについては、利用が増えるほど市の負担が増加し、目標値から遠ざかるため、計画策定の際にも苦慮した項目。

ここのご指摘については、数値ではなくて表記についてのご意見か。

森 倉： そのとおりである。乗合タクシーについては、利用が増えた分、経費も増加することを明示した方が良いと思う。

事 務 局： 表現方法を修正する。

会 長： 他にご意見は。

河 本： 鉄道の年間利用回数の評価のところ、職場等で飲食の機会の増加が期待されるため、そのような行楽や外食の機会に合わせて利用を促したいとのこと。その際の移動については、市内の移動を想定しているのか。あるいは、松山市等市外への飲食等での移動も促すのであれば、鉄道の利用が増える一方で、市内の賑わいや活性化の衰退につながるおそれがあるが、その調整はどのように考えているのか。

事 務 局： こちらの指標としては、東温市内の駅を通過した人数で計測しているため、松山市方面への外出についても目標の達成には繋がる。必ずしも市内だけを限定した案内ではなく、市内から市外から問わず、幅広くご利用いただきたいと考えている。

横 手： 本市が負担している公共交通サービスの収支差について。

“それ以上の利用が期待できない場合は、住民の意向を十分に聴取の上、仕様の変更を検討したい”と記載がある。

住民利用者の増加が期待できないからといって、すぐさま仕様の変更をするのは踏みとどまっていたきたい。

利用の増加につながる案内がまだまだ不足していると思う。色々なことを考えていくのは大事だが、今はまだ周知も不足している。安易に路線廃止を検討するべきではないと思う。

事 務 局： この場合の仕様の変更というのは、バス以外のモビリティサービスの導入を検討するというだけでなく、例えば、より利用者の見込める時

間帯へダイヤを改正したり、あるいは鉄道との接続のためにダイヤを改正したりといったものも含めての“仕様の変更”を検討していくというものである。

横 手： 理解した。

会 長： 先ほどご指摘をいただいた部分については、事務局で修正をして後日委員にご報告という形か。

事 務 局： 表現方法の修正については、事務局に一任していただけたらと考えている。

会 長： 何点か委員の皆様方からのご指摘をいただいたが、表記の修正についてはご指摘いただいた内容に沿う表現に改めるということで、事務局に一任してよいか。

各 委 員： 《承認》

会 長： ご指摘をいただいた部分については、修正の上、国へ報告するということがご承認してよろしいか。

各 委 員： 《承認》

会 長： それでは、事務局修正後に国へ報告させていただく。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果及び事後報告について

事 務 局： <説明【資料3】>

会 長： ただいまの説明について、何か質問はないか。

横 手： 山間路線についての報告に際し、人口の減少について言及があり、人口減少は今後も進み、地元住民だけで維持していくのはなかなか難しいとのこと。

路線バスというのは、確かに地元住民の足でもあるが、観光等市外からの

来訪者も利用できるため、そのような使い方も推進していくべきあると思う。

東温市には、白猪の滝や滑川溪谷など貴重な自然の資源があるので、そのような観光地を上手く周知できると、利用の増加が期待できると思う。

コロナについて5類に移行し、私たち“公共交通を考える会”でも、一般公募をこの6月から始めた。先日の活動では、定員は15名のところ応募は20名あった。残念ながら雨天により翌週に延期したため、結果としては10名となったが、潜在的な需要はあるので、観光資源の案内はとても大事だと思っている。

先日、アドベンチャーツーリズムという講座があり、観光ツアーガイドを養成しようということで、東温市においても養成講座を実施していた。観光物産協会の方から、白猪の滝ツアー等の観光地でのツアーガイドを養成するという事でお声掛けいただき、私も参加したところである。東温市全体で、観光にも力を入れていこうということであれば、公共交通も一緒に連携し、せっかくある資源を利用していく方が良いと思う。観光の部署と都市整備課さんと連携して考えていくべきことだと感じた。

アドベンチャーツーリズムガイドでは、外国の方も呼び込もうと考えている様子で、講師の方に路線バスを活用した私たちの活動をお話したところ、外国の方は路線バスへの乗車をととても喜ぶので、いい企画だと言ってくれた。滑川溪谷などは気軽に水遊びができる場所なので、そのようなところも外国の方には人気だとのこと。様々なニーズがあるので、上手に事業に取り入れながら路線バスが維持できればと思う。

人が乗るように仕向けていかないといけない中、地元の方が生活で利用するだけでは限界がある。そのため、ツアーを開催するなどして、行楽での利用にも働きかけていくことが大事であると思う。私も長い間委員をさせていただいているが、あまり観光との連携は進んでいないと感じており、このままだと路線の継続は難しいと思う。

先ほど、ダイヤ編成についても言及があった。難しいとは思いますが、例えば、山間路線についてはさくらの湯を経由するなど、思い切ったダイヤの改正に踏み込んだり、他市のように観光に力と予算をかけたりなどして良いと思う。観光物産協会の方と連携・調整をお願いしたい。

会 長： 市役所においては、地域活力創出課が観光関係の部門を担っている。都市整備課と地域活力創出課の連携を進め、観光物産協会を巻き込んで、観光面の推進についても検討して参りたいと思う。

文面の修正についてはいかがか。

事務局： 観光については実施しないというのではなく、維持を含めての目標の検討という内容であり、ひとまず報告はこのとおりとさせていただきたい。

観光面での推進という点については、今後も、地域活力創出課や観光物産協会さんとも連携を進めて参りたい。

また 8 月広報に路線バスの利用のご案内をさせていただき、併せてホームページに観光地に合わせたバスの乗り方を掲載する予定となっている。

会長： 観光部門については今後の検討課題。関係部署との連携を今後も図っていくということで、ご理解をいただきたい。

この案については、この資料のとおり国の方に提出をするということで、ご承諾をいただけるか。

各委員： 《承認》

会長： 賛同を得られたので、資料 3 のとおり国へ提出する。

(3) 地域内フィーダー系統確保維持に係る公共交通計画について

事務局： <説明【資料 4】>

会長： ただいまの説明について、何か質問はないか。

伊予鉄バスさんからは、特にご意見は。

清水： 特に異論はない。

会長： それでは資料 4 のとおり、国へ申請してよろしいか。

各委員： 《承認》

会長： それでは資料 4 のとおり、国へ申請する。

(4) 山間路線クロスセクター効果の算定結果について

事務局： <説明【資料5】>

会長： 補足説明等を宮崎先生からいただきたい。

宮崎： 今回山間路線のクロスセクター効果について試算されている。

資料にあるとおり、山間路線のクロスセクター効果とは、山間路線が廃止された場合に、各分野においてその代替となる施策の実施に要する費用と、山間路線の運行に対して行政が負担している費用を比較することによって、山間路線の多面的な効果を把握するということである。

事務局に確認したいのは、効果算定の目的である。

事務局： 計画策定時、目標数値を設定する際に苦慮した経緯があり、現行の公的負担額の多寡について、指針となるものが必要であると感じていた。また、現在の路線バスに対する意見や、その他の移動手段の導入の声もあった中、追加での政策・費用の意見が出た際、検討材料の一つとしたい。

宮崎： この算定結果については、ある条件のもとでの試算ということになるため、参考資料という感覚で数値を見てほしい。

数値の算定上、タクシー券や貸し切りバスの料金の積み上げとなって、金額を積み上げているが、実際にタクシー券を配付した際、需要をカバーできるかどうかはまた別問題となる。

このように、クロスセクター効果は、一定の条件下で積算した数字であって、考え方についてはそれぞれである。数字が独り歩きするのは良くない。

今回対象とした山間路線は、需要が低迷している路線である。今後、どのように取り組むかについて、意見交換などをするのが、本協議会の役割である。そのため、本協議会は、事務局やバス会社に任せておけば良いというのではなく、協議会のメンバーの皆さんが、それぞれの立場で、どのように協力ができるかなどを提案する場であると考えている。例えば、先ほどの議論の中で、山間路線バスについて観光面での活用という話があった。東温市の観光施設等の紹介については、単なる観光施設の紹介にとどまらず、バスを利用してアクセスする方法や具体的にどの便に乗車すれば、何時にその観光施設に到着し、どんなことができ、そして、何時の便を利用すると、何時に到着できるなどといった、モデルプランの紹介をすることによって、バスを利用した観光施設の利用が期待できる。このような観点で、何時にどこのバス停で、この路線に乗ると、このようなプランで白猪の滝を堪能できるなど、各ホームページなどで紹介していただき、PR できれば、良くなってい

くのではないかと思う。

私に関わっているある地域をご紹介する。そのバス会社も人員不足等でかなり厳しい状況ではあるが、色々なアイデアを出して、PR用のチラシを作成したり、新しい試みを実施してみたりと、様々な取組を実施している。当然それで爆発的に利用が増えるというものではない。しかし、様々な事業に熱心に取り組んでいる姿が多くの人々の心を動かすのか、応援したいという雰囲気を醸成しているように感じる。

東温市の状況をみると、それぞれの主体が別々に動き、連携が取れていないように思えて寂しいと思う。みんなで盛り上げていこうという意識になればと思う。

会 長： ほかに意見や質問は無いか。

松本 (PTA)： クロスセクター効果において、教育分野について言及されているので確認したい。

PTA 連合会ではバス通学の児童数を把握していないが、クロスセクター効果を算出した際の数量の根拠資料は何か。

事 務 局： 学校教育課が定期通学について補助を支出しているので、その数字を活用している。

松本 (PTA)： 記載の額面に少し驚いている。

事 務 局： スクールバス等を勘案する際にも、こういった数字を活用して検討していければよいと考えている。

松本 (PTA)： 因みに、本年度の定期利用者数は公表いただけないか。

事 務 局： 手元がない。

松本 (PTA)： 後日で構わない。

会 長： 事務局は、後程人数を報告するように。
ほかにご意見はないか。

宮 崎： 以前からあった話ではあるが、松瀬川については徐々に利用者が減り、人

口も減っている地域ではあるものの、路線バスを廃止できない理由としては、地元の小中学生が路線バスをスクールバスとして活用しているという点大きい。ではどうするのかということ、以前、地元を交えて検討していたことがあった。

その時と比べて、山間路線沿線の人口はさらに減ってきていると思うが、どのように見直していくのかが問題。地元地域の方と話をしたり、或いは先ほどように観光路線としての活用を推進したりといったことなどが考えられる。観光としての活用となると、市の観光部局との連携が考えられる。そして、これだけでなく、ここにいる協議会メンバーの方々が、ご自身の立場ではこのような関わりができるのではないかと、というような意見を出し合い、どんどん盛り上げていく必要があると思う。

先ほど話に出ていたが、「普段自動車に乗っているために公共交通を使わない」という話は、実際によくある話である。そのような人が大多数を占める地域で、その地域の方だけで議論をすると、バス路線の不要論もでてくる。

しかし、本当に不要かという点、おそらくそうではなく、このバス路線がなければ生活できないという人がいるかもしれない。このようなことを踏まえて、現状を把握し、どのような地域課題があるのかといったことなどを把握して、バスだけの話ではなく、その地域のことなどを含めて、具体的な対応策を検討することが大切であると思う。

私は、長年東温市に関わっている中で感じていることもある。例えば、本市には大きな病院などがあり、周辺住民だけでなく、遠方からも診察や入院などで来院されると考えられる。その中には、当然公共交通機関を利用される方もいるわけであり、その方々も含めてどのようにフォローしていくかという考えも必要ではないかと思う。

市の中だけで考えると、ついつい住民の意見ばかりを考えてしまいがちになるが、住民以外の方が買い物や観光などにも公共交通を利用しているという点も忘れないようにしたい。

また、川内 IC に高速バスのバス停があるが、こちらの利活用についても考えていければと思う。

(5) その他報告事項

事務局： <説明【当日資料】>

会長： ただいまの説明について、何か質問はないか。

横 手： 今回の実証実験については、やはり事前の地域の方々への周知が甘かったのではないかと思う。しっかり説明の上、信用していただければ利用できた方もたくさんいたのではないかと。

今回の実証実験で、利用者が少数だった結果を以て、この地域での議論が終了したという認識にはならないで欲しい。また、地域の選定にも疑問がある。バス路線への影響を鑑みた結果の地域選定であったとは思いますが、次回の機会があれば、様々な地域を検討していただきたい。

事 務 局： 時間がない中でも、個別訪問や地域へのアプローチはしたところだが、新規利用者の獲得に至らなかった。

また引き続き、地元の方々については、お声がけと情報提供等を受け、市全体の公共交通にも関心を持っていただき、個別の取組についても検討していきたいと思う。

和 田： 運行事業者の私から一つご報告させていただきたい。私どもと川上タクシーさんとで共同で運行させていただいたが、ちょうどこの時期、コロナによる活動の自粛要請が出ていた中での運行であり、外出を控えている方が非常に多かった。

コールセンターの方に尋ねると、予約時に一人か乗り合わせかの確認をして、乗り合わせとなるなら時間を変更するなどの事例があり、乗り合いでありながら、乗り合わせを避けるような状況があった。

ちょうどこの実証実験の時期と、コロナによる自粛要請期間とが重なったため、利用の伸び悩みとなった点も否めない。

事務局にお願いしたいのが、当該サービスを利用されていた方々の、サービス終了後の移動手段についての調査であるが、それは可能か。

事 務 局： 事業の実施主体が民間事業者であるため、事務局としては利用者の個人情報等を保有していない。後追い調査については、実施事業者を確認する。

会 長： 本日の協議・報告事項はすべて終了となったが、全体を通して意見や質問はないか。

宮 崎： TAKUZO の話があったが、事務局が直接関わっていた案件ではないので、協議会の皆様に上手に共有できなかった点はある。

だから全く駄目だということでもなく、次回このような機会があれば、き

つちり関係者で連携することが大事であるということがよくわかった案件だと思う。

また、AI デマンドなどのキーワードがよく聞かれるが、導入される自治体も少なくなく、AI というキーワードに飛びついているという印象が非常に強い。

AI があれば何でも解決するとか、ビッグデータがあれば何でもわかるというのは、誤りである。多くの人が誤解している。例えばデマンドシステムを例にすると、システムを提供する会社はたくさんあり、会社によって、アルゴリズムが異なっている。この TAKUZO というシステムは最短ルートを割り出すものではなく、いかに効率よく、より多くの乗客を束ねて乗り合わせるかを割り出すシステムである。今回のように、コロナ禍で乗合が忌避される場合には、そぐわないシステムかもしれない。

各社様々なアルゴリズムがあり、どのような移動の実現を地域の人たちが望んでいて、そして、その地域の地形条件などを含めた地域特性などを考慮すると、システムにも得意や不得意がある。これを考慮することなく AI デマンドシステムが導入されているケースが多いのではないかと思われる。

そのため、AI だから何事も解決してくれるというのではなく、まずはアナログで上手に機能するかがポイントのように思える。つまりは、関係者間の連携を図るのが大事。連携が上手くできている状態で、効率化を図るために AI を導入するということは結構だが、何も上手くいってない状況下で、とりあえず AI を導入したところで課題が解決するものではない。

今日は少しネガティブな意見も申し上げたかもしれない。東温市の協議会においては、様々な意見が出る点は良いと思う。しかし、以前の協議会では、それぞれの立場でどのような協力ができるか、協議会後にその話をそれぞれの組織に持ち帰り情報共有するなど、前向きな意見が出ていた。このような前向きな意見が出るような場となることを願っている。

異動などで構成員が変わるため、致し方ない点もあるが、もう少し協議会メンバーとで協力し合い、単に公共交通の利用者を増やすためだけでなく、公共交通があることでどう生活の利便性が向上するかを考え、そして、市外から来た方がここに来てよかったと思っただけの地域になって欲しいと思う。

そのためにも、引き続き皆様方のご協力をお願いしたい。

横 手： 最後によろしいか。先ほどお金の話も触れたが、公共交通は環境にとっても良いということを忘れないでいただきたい。

滑川では、夏休みは車であふれかえり、駐車場もいっぱい止めることが

できない。しかし、バスを利用することで、渋滞や駐車場の状況も緩和され、また非常に多くのCO₂の削減にも繋がる。そういった事情も子供たちに理解してもらいたく、学校の遠足や課外授業等にも利用していただきたい。

私たちが滑川へのツアーを企画すると、コロナ禍前ではあるが、30人から40人ほどの応募がある。その際、伊予鉄さんが大きなバスを手配していただき、臨機応変に対処していただいたことについて、本当にありがたかったと感じている。

会長： それでは、以上で本日の協議事項は終了したので進行を事務局に返す。

4. 閉会

進行： それでは以上で本会議を閉会する。